

2025 <<吃音>>指導講座〔参加感想〕

先生方お一人お一人が、日常の実践から沸きだした課題に、真摯に向き合い、解決に取り込む姿に接し、有意義な二日間になればと、気を引き締めお話をさせていただきました。

今回の講座は、以下の4点について、いつもと異なる内容になりました。

まず1点目は、少人数になったために、相談室に通室中の吃音児あさひ君から参加してもらい、直接指導を経験してもらったことです。2点目は、講座の場をお借りし、通室中の恵美さんから参加者を相手にクイズを出してもらいました。クイズの出題からMCのごとく全体の進行まで、全て一人で実施してもらいました。社会に出発する自信になったようです。3点目は、かつて中学校時代に通室した磯野さんから、大手企業の重役面接を経て採用されるまでの経験から、指導を受け“吃が軽くなる”ことの意義を話してもらいました。4点目は、吃音のある学生さんの参加です。勿論、指導者の立場での音読も経験してもらいました。少人数の参加者だったことが幸いしたと考えています。

皆さんの感想から、幾つか言葉をプロットさせて頂きました。それぞれが、梅村の臨床姿勢を感じ取っていただいたと実感できる言葉です。

- 「私が直接吃音指導をしていただける場面も多々あり、そのたびにブロックが軽くなっていく感があり、感動しました」
- 大人になったとき、子ども時代の吃音のある生活を振り返って話していただけたことで、自分が担当した子たちは今どんな風にことばと向き合い、どんな風に考え感じているのだろう
- 「音読を音読だけでなく、人生に触れるつもりで音読（ゲーム）をしていってほしい」
- 吃音指導を通して、彼のその後の生き方に影響を与えていたことを目のあたりにしました。

これらの感想【含：皆さんの感想への梅村の感想やコメント、また、質問に対する回答】を、相談室のHPに掲載することをご了解いただき、ありがとうございました。

山形言語臨床教育研究会代表 梅村 正俊 2025.10.26

【お断り】

- ① 行替えは、本文と異なる場合があります。
- ② 【●●】内の記述は、梅村の感想や意見です。個人の感想に対して、多少厳しいと感じられるコメントを述べさせていただいた箇所が数か所ありますが、決して、個人へ向けたコメントではありません。本講座に参加された**全ての先生方に考えていただきたい**内容と受け止めて下さい。尚、梅村からのコメントの記述は、全て明朝体で記載してあります。
- ③ **ご本人の記述（書体=HG丸ゴシック）の中で、赤文字にした部分も、全ての先生方にも考えていただきたいと思える内容です。**
- ④ 個人名は、所属を含めて全て記入しておりません。ですが、おおよその職種があったほうが良いと考え、以下の4種に分類し、番号の後に記しました。

A：通級指導教室（ことばの教室） B：病院・福祉関係の言語聴覚士

C：歯科クリニック関係 D：その他

O1A

吃音の講座に初めて参加させていただきました。

日々の自分の指導において、子ども達の吃音の症状を軽減させてあげたい思いはあれど、具体的に指導者側が何をしたらよいか分からないまま音読や会話の練習をしていました。

「吃音には波がある」「完全に0にすることはできない」という考えに甘えて、「吃音が出て、その子が自己表現できているならよいのではないか」と吃音の症状の軽減に尽力できていない自分を肯定していたように思います。

目の前の子ども達のために、指導者がするべき役割を果たせていない自分を反省いたしました。

【本講座の開催意義に直接触れる感想を有難うございます。先生のような赤裸々な感想〔反省〕に磯野さんが触れたとき、自己の吃音の話をした意義を深く感じてくれるものと思います。】

共調同時音読について、ビデオの視聴や実技研修を通して初めて知ることができました。私が今までやっていたのは並行同時音読だったり、指導者側の速度やリズムに子ども達を合わせさせたりしていたのだなと気付くことができました。特に実技研修をした時に、相手の声質・イントネーション・読む速さ・息つぎの仕方・間の取り方・言葉や音の一つひとつのつなぎ方など、指導者側がものすごく集中して瞬時に分析をし、それをその場で再現することで、初めて「共調」に至るのだと体験的に知ることができました。児童側の立場でもやらせていただけたことで、自分と相手がどう読んでいるのかの違いを比べることもできました。本当に「共調」となっていたかについては自信がないのですが、相手から合わせてもらった感覚や、私が相手に合わせられた感覚が数回あったと感じました。この効果を持続的なものにするには、さらに経験を積む必要があるので、努力し続けたいと思いました。

梅村先生の指導を受けた磯野さんのお話も大変貴重で勉強になりました。当事者として今感じている思い・感じ方の変化・周りの人の対応・指導者として配慮すべきことなど、様々な視点で考えることができました。特に、磯野さんの辛さや苦悩を周囲が、心ない言葉で踏みにじった話を同った時は、とても悲しい気持ちと憤りを感じました。努力を否定することは絶対にあってはならないこと、その人のもっている力を信じ、理解して寄り添いたいという気持ちを持ち続けたいと、改めて強く思いました。

あさひくんと絵カード合わせゲームでは、私の方が体に力が入り、声が出にくい感覚になっていました。順番が回ってくることや、声を合わせないといけないというプレッシャーを自分が感じていて、その緊張をあさひくんにとってもらったというのが大きかったです。本来、指導者側がリードすべきところを、あさひくんの力で自分の発話が楽になり、ゲームの最期の方では力が抜けました。子ども達こそ、大人をよく見て、大人の声を聞いているのだと反省し、自分でもできるようになりたいと思いました。

O2A

子どもや親の立場になったときに、どれだけ吃音について悩んでいらっしゃるのか、いつも考えながら指導はしていますが、なかなかうまくいかないのが常です。

今回の研修を通して、そのヒントをいただけたと思います。梅村先生のようにうまくはできなくとも、なおすことが言葉の教室の役目という気持ちを持ち続け、努力したいと思います。

言葉の改善【指導（治療）】を通して人格を形成する。心に刻み、がんばります。

O3D

今回初めて参加させていただきました。梅村先生のお話を聞いたり、動画を観たりして、**吃音の種類は子供の数だけあり**、その子の様子をよく観察して適切な指導をする必要があることがわかりました。

私は今まで吃音を治すという考えに触れたことがなく、さらに指導者の立場に立ったこともなかったため、2日間を通して全てが新鮮な学びでした。

私が直接吃音指導をしていただける場面も多々あり、そのたびにブロックが軽くなっていく感覚があり、感動しました。

私は、当事者だからこそ、吃音の子がブロックになっている時の苦しさも、吃音を指導する先生方の努力もどちらも理解できる存在にならなければいけないと感じました。学生のうちに経験できて良かったです。また機会があれば、よろしく願います。

【初めて電話でお話をした時、吃音がある方だなと気がつきました。話し始めに、若干不自然な、声を出す準備のような間がありましたから。勿論、講座の趣旨からして、『直すために参加する』わけではありませんから、他の先生方と同様に関わろうと考えていました。でも一方では、共調音読指導の練習でも、練習の“子ども役”の時には、ブロックの軽減を図ってあげようとも考えていました。以後も、梅村で役に立つことがあれば、ご用命ください】

O4A

吃音について理解しているように思っていたけれど、A君がことばの教室の出入り時、職員室で「ことばの教室終わりました。さようなら」などのあいさつで、食べるか、吃らないか、また、職員室の先生方の反応を気にしてしまいます。あいさつは、A君も気にしているだろうと思います。ブロックが出ないように、話しやすい声をみつけて、合わせていかなければならないと思いました。

昨日は、磯野さんから学校の中で感じた貴重な体験談を聞かせていただきました。学校では大変なつらい思いをしてこられたんだなと思うと、反省させられました。相手の状況をよく見て声をかけなければならないと思いました。

声をよく聞いて合わせる事が難しかったです。自分の声のトーンや調子を自分でよくわかっていないことや頭で考えてしまって、どう合わせたらよいかわからなくなってしまいました。もう少し音読することを練習してみます。

吃音のお子さんの楽しそうに話している様子をもう少し観察したいと思います。そしてどうしたいのか整理したいと思います。【その結果をいつか教えてください】

05B

今後学童期の生徒の吃音指導を行うこととなり、今まで成人の言語聴覚療法のみ行ってきた経験しかなかったので、初めてこの講座を受講しました。

基礎もないので、ご経験のある先生方の中で何をしたら良いのかわからず、無我夢中でしたが、**指導の仕方ですぐに変化がある**ことを見せていただき、あまりに遠いですが、あるべき姿を見せていただけたことに感謝しております。

06B

当事者の方のお話をうかがう機会をいただき、貴重な学びとなりました。

一見スムーズに話しているように見えても、ご本人の中では、大きな努力や苦しさを感じていること等、吃音をどう感じているのかといった当事者の方の視点に触れることができ、理解を深めることができました。その方にとっての楽な発語をしっかりと見極めること、楽な発語が生起するように指導する側の発語をコントロールしていくことの大切さについて、改めて学ぶことができました。また、成人になるまでの出来事や、その時の思いについてうかがえたことも、とても良かったと思います。

実際にお子さんとゲームをさせていただけたことも良い経験になりました。

貴重な経験をありがとうございました。

07A

これまでの自分の音読指導は、子どもと一緒に、ただ文章を読んでいるだけでした。子どもの声の調子や呼吸のタイミングなどを意識することはありませんでした。何の指導にもなっていなかったと反省しています。

また、子どもに声をかけるときの「せ~の」一つをとっても、声の出し方に気をつけなくてはならないことが分かりました。

この2日間で、たくさんのごことを学ばせていただき、指導する立場として改めるべきことが多くあると反省しました。子どもの声に指導者の声を合わせるのは、私には、正直まだ難しいですが、何も考えずに音読指導をやっていた頃よりは、大きく進歩できたと思います。これから、子どもにとって、少しでも役に立つ指導者になれるよう、がんばりたいと思います。

08A

吃音の症状として、本に書いてある**“3つの症状”ばかりではないこと**、子どもの今の状況をよくみていくこと、子どもが苦勞していることについて、私自身、理解が不足していることを反省させられました。磯野さんの貴重なお話とともに一番印象に残った言葉は**「音読を音読だけでなく、人生に触れるつもりで音読（ゲーム）をしてほしい」**という梅村先生の言葉です。磯野さんの話の中にも10年を経ても磯野さんの傍らに梅村先生の存在があることを感じました。“その子の人生に触れていく”ことを認識して指導にあたっていきたいと思います。

指導者の配慮や意図も多く感じました。また、音読をとおして楽な声をどうゲームやプレゼンにいかしていくかについての話もあり、本当に勉強になりました。また、あさひさんに協力していただきながら“楽な声”をどう応用していくかの研修もさせていただきました。

09A

今回、梅村先生の指導を受けた方の貴重な声を聞くことができました。社会人として充実したお仕事をしている様子がうかがえますが、梅村先生と出会ったことで楽に声を出せるようになり、自信がついたという話が印象に残りました。「脳内で梅村先生と一緒に話す」というのは、指導されたことが、きちんと自分のものになっているのだと思いました。共調同時音読指導は3回目ですが、今年も難しいと感じました。でも、声がそろった時の心地よさは少しずつわかってきたように思います。

その後のあさひ君とのカード集めゲームは、実際の小学生の男の子を相手に実践的な演習ができました。梅村先生に「あさひ君が先生に合わせてくれている」と言われましたが、その通りだと思いました。子どもの声をよく聞き、呼吸をよく見て、指導することの大切さを学びました。

ことばの教室【指導?】を通して自信をもたせる、人格形成ができることをめざしていきたいです。

梅村先生の実践をたくさん教えていただき感謝しています。今回は少人数で、そして梅村先生の指導を受けた方お二人とも出会うことができよかったです。【図らずも少人数になりましたが、次回があれば、少人数での開催を考えます】

10B

④の茂君の課題は、前回示された絶対はずせない5か所について、やっと、何回か聞くと「ああ…」と判るようになったものの、楽な発語の声でない部分に相変わらず「違う」と言い切れません。なので悩まず今回も参加をしました。案の定、由香さんの課題に、絶対に使えない所を check しておさえるべき楽な発語をはずし、今も嫌悪に陥るばかりです。

⑦の声を合わせる事も難しく、今のは合っていないと判る時と、何故今のがOKかが判らず、せっかく磯野さんとの機会は、普段やっと出来るようになった(?)声をおさえる、トーンを下げる、語尾をはねない話し方が全く出来ず、あまりの出来なさに頭の中が真白でした。

気を抜くと、語気も強く、地声が大きく早口の私は(年を重ねた分、トーンはいく分下がりましたが)自分の声や発語速度のどれが本来か判らなくなって数年。だからこそ、子どもたちには無理な別の話し方は押し付けたくないのですが…。いつになったら、叫びたくなる程おさえてではなく、自分の声をコントロールできるのかと久しぶりに落ち込みました。

とりあえず、数少ない指導児達を思い浮かべて、茂くんの映像【相談室のHPでご覧いただけます】を聞く事からまた始めようと思います。

学生さんの発話のおだやかさにめっちゃくちゃ羨ましいと感じます。

11A

今回の研修では、吃音指導の開始から、途中、終了、その後社会に出てからの姿を、実際の児童と社会人の方に来ていただき、話してもらったり指導させてもらったり、他の研修会では経験させてもらえない貴重な研修会でした。

映像に出てくる子どもたちも梅村先生の指導を受け、吃音や構音が改善していくことは当然ですが、それと同時に自分に自信をもって生活していく、その姿が今後の生活、人生を大きく変えていこうと思っていました。今回は、社会人になった方が今の生活のことを話してくださった内容と、我々の指導につき合ってくれた小学生の様子からも、自信をもって生活している様子がわかり、変な話ですが吃音があったことで悩まれたとは思いますが、梅村先生と出会い、生活、生き方が豊かになったのではと思い研修を受けていました。

そのような子どもとの関わりをするためにも、子どもを診る目、指導技術を身につけることが大事、担当する子どもたちをよくしたいと思う方が、当日集まり、緊張があるなかで真剣に学ぶことができ、うれしく思いました。

実技が充実した研修会でしたが、その技術が指導でどう活かされ、その技術ができないと実際の指導で進めることができないことを、この2日間で体験でき、研修の大切さ、これからも各自が研修を進める必要性を実感できました。

研修の終了で終わりではなく、それぞれが自分の課題に向かう研修会でした。ありがとうございました。今後もよろしくお願いいたします。

12A

小学校のことばの教室で指導をしていると、ことばを修了した後の子どもたちのその後がわかる機会はほとんどありません。今回、大人になったとき、子ども時代の吃音のある生活を振り返って話していただけたことで、自分が担当した子たちは今どんな風にことばと向き合い、どんな風に考え感じているのだろう、と思わずにはいられませんでした。

「ことばの教室に通ってよかった。」「今、楽しく前向きに暮せている。」と言われるような指導をしたいと思います。

そのために、その時々の子の目の前の子の発語をどう評価し、どのように声を揃えていくのか、その子の気持ちをどう把らえるのか研修していきたいと思います。

13A

今回の講座は、梅村先生の指導場面以外に成人の方の話、子どもへのゲームを通じた指導（ライブ）、音読指導の演習など学ぶ機会がたくさんありました。以下、感じたこと、学んだことを書きます。

音読指導は「相手の声に合わせてること」の難しさを改めて感じました。「声を前に出す」「相手のイントネーションを把握し合わせる」など梅村先生から何度も教えていただいていることです。今回もま

だ、もやもやした気持ちがあり、目の前の子どもに対して即応してできるように、スーパーヴァイズをいただきながら、練習していかなければならないと思っています。

成人の方の話は、児童期からの思いを知る良い機会になりました。梅村先生との出会いが大きな転機になり、今回のような姿になったと思います。

吃音指導を通して、彼のその後の生き方に影響を与えていたことを目のあたりにしました。

14A

2日目の小学生の男の子が“いい声”でカードを読んでいたのを聞いて、いい声のイメージが少しわかったような気がしました。また、自分が指導している時に、今は1語文になっていたんじゃないかとか、子どもの方が指導者になっていないかとか常に気になるようになりました。

「講座開始前の諸連絡と受付」そして「残念な生き物クイズ」をしてくださった恵美さんは、お会いするたびに、次々と新しい挑戦をされていて本当にすごいと、いつも勇気をもらっています。話せるということの影響力を目の当たりにして、私も私と出会った子ども達と一緒に、前に進んで行けるようにもっとがんばらないと、思いました。

梅村先生の教え子でスピーチをしてくださった磯野さんのお話もとても考えさせられました。吃音について配慮がない状況での教師の声かけ。傷つきもしたし、それで話す結果も得られたと前向きにとらえて生かされたのは磯野さんのすごさなど。一見すらすらと楽に話せているように見えて、脳内には梅村先生が何回も出て来て、話しづらくなりそうな時はアドバイスをしてくれたという話も興味深かったです。

15B

今回は構音を2日間と吃音の1日目に参加させて頂きました。どちらも体験型の講座ということで、頭の中で考えて終わりにならず試すことができたというのは大きな経験になりました。特に吃音の講座では、成人して仕事をしている人が実際に来て実体験を話してくれるだけではなく、その方と一緒に音読の練習もやらせていただけるという貴重すぎる時間だったなと思いました。今振り返ると、「やってみる人いませんか？」と梅村先生が皆さんに声をかけた際、手を挙げられなかったことを後悔しています。

実際に読み合わせをしていると、喋ることに必死になってミスに気づかないのですが、第3者として聞いていると若干の声の高さの違い、イントネーションの違い、言葉の重なり具合、こういったものが少しずつ違うのを感じるがありました。なんで読んでいるときに気づけないんだろう？！と悔しくなりますし、梅村先生にはすぐにダメと言われて落ち込むけど、悔しいし、感情がぐちゃぐちゃですが、こういったすり合わせが上達のカギ？なのかなとも思いました。なのでこれからも、この悔しさを忘れずに子供たちに関わりながら、練習に励みたいと思います。

16B

実際、吃音の方を指導している場面や、その都度吃音の方から、しゃべりやすさのフィードバックについて見る機会をくださり、指導する側の1つ1つの言動や仕草等が常に影響する事を感じたと同時に、日頃梅村先生が言っている子どもの反応を1秒1秒見てこちらでも行動するという事の重要性を、改めて実感しました。2日目に来た男の子の表情を見ると、自信があり、そして笑顔があり、先生方にゲームのルールを教える等の様子を見て、吃音がよくなる事で子ども自身の自尊心にも影響している事が分かりました。日頃、梅村先生がおっしゃっている、構音、吃音の指導はその子ども自身を作りあげるといったことばをより実感しました。私自身も指導のなかで子供の成長を促す事が出来るような指導者になりたいと強く思った2日間でした。

17B

当事者の方のお話を聞いて、『自分だったらこう思うかな、周囲の人にこうして欲しいかな、という思い』と『お話し下さった方の思い』が違った事【とても大切な視点です。具体的なことを教えてもらえると、皆さんが、自分の言動を振り返る際の参考になると思います。】に触れ、改めて思い込みで決めつけて関わってしまう怖さを感じました。

この人はどんな人でどんな事を考えてどうしていきたいのか、ということをしちんと分かってもらう努力を忘れないようにしたいと思います。

声を合わせる練習では、そろっているように聞こえるけれど、一緒に読んでいて違和感を感じることがあり、先生からハモっていると指摘して頂き、腑に落ちました。つい、声の高さを合わせてしまっていた事が分かりました。